

2017年度帯広大谷高等学校自己評価報告書
(2016年4月～2017年3月)

帯広大谷高等学校

はじめに

本校では、1993年から校長の諮問機関である教育体制推進委員会を中心として学校改革を行ってきました。その結果、2003年から現在まで十勝管内私立高校の中で最も高い志願者数と学力レベルを維持してきました。今年度は、過去最高の進学実績となり、これまでの進路指導部、学習指導委員会の取り組みに加え、3年目を迎える大谷塾の成果が徐々に現れてきたものと思います。

今年度は、さらなる教育内容の充実について向けて、系列校の他、道内外の高校の視察を行い、進学実績の向上に繋がる新たな取り組みを検討いたしました。

この度、今後の学校づくりのために、評価領域Ⅰ「建学の精神・教育理念・教育目標・学校目標」、評価領域Ⅱ「分掌」、評価領域Ⅲ「管理運営」、評価領域Ⅳ「財務」、評価領域Ⅴ「改革・改善」、評価領域Ⅵ「学校評価アンケート」について自己評価を行いましたのでご報告いたします。

校長 大 西 正 宏

1 建学の精神・教育理念

(1) 本校の建学の精神・教育理念

親鸞聖人の本願念仏の教えを建学の精神としています。大いなる「いのち」に目覚め、人間として生きる喜びを見出すことを願いとしている。

また、平成5年女子単学から共学への移行を機に、建学の精神・教育理念を生徒に理解しやすく、男子生徒の受け入れに合致するよう整理をした。教育の指針は「敬愛」「自立」「創造」。以下、「教育目標」「学校目標」「指導基本方針」を掲げ、「いのちの尊さ」「平和の大切さ」を根底に据え、教育場面で具現化していくことが確認された。

(2) 建学の精神・教育理念の周知

生徒には、「花まつり」「報恩講・追弔法会」「ご正忌法話」の各宗教行事において、「いのちの尊さ」「平和の大切さ」につながるご法話をいただき、建学の精神と教育理念に触れる機会を設けている。また、全校集会での校長講話は、建学の精神に関連する内容としている。

教職員には、学園全体の新任教職員研修会の他、毎年度末に「宗教教育研修会」を設定し、理事長から建学の精神に関わるテーマでの法話をいただいた後、懇談を通して建学の精神についての理解を深めている。

(3) 現状の課題と今後の改善計画

「花まつり」「報恩講・追弔法会」「ご正忌法話」等の宗教行事を通して教職員・生徒が「建学の精神」に触れる機会を持つことは意味深いことと考えるが、それだけでは十分とはいえない。

各部門それぞれ厳修していた「報恩講・追弔法会」を学園の「報恩講・追弔法会」と位置付け、高等学校を会場として厳修した。幼稚園児・生徒・学生が参列し、今までにない一体感の中、厳かな「報恩講・追弔法会」となった。今後、3年に一度、学園全体で実施していくこととした。

今後の改善計画は特に無いが、教職員一人一人が、「建学の精神」の、大いなる「いのち」に目覚め、人間として生きる喜びを見出すことの意味を深く自覚し、日常的に教育活動全般の中で、大谷の教育の原点として生かしていく必要があると考える。

2 教育目標・学校目標

(1) 本校の教育目標・学校目標

①教育目標

- a 智慧と慈悲を基調とし、誠実で心身ともに健康な人を育てる。
- b 同朋精神に依って、社会に貢献できる人を育てる。
- c 無限の可能性を引き出し、将来の目標に向かって邁進する人を育てる。
- d 自分の行動に責任を持ち、勤労意欲の豊かな人を育てる。
- e かけがえのない人生の意義を自覚し、平等と平和を愛する人を育てる。

②学校目標

- a 思いやりと感謝の心を持ち、いのちの尊さを大切にする、情操豊かな人になろう。
- b 自己を正しく見つめ、個性と独立心に富み、目標に向かって努力する人になろう。
- c 真実を追究し、勇気と情熱を持った、次代を担う人になろう。

(2) 教育目標・学校目標の周知

生徒には、各目標を教室に掲示し、常に意識させるようにしている。また、全校集会、特別活動および総合的学習の時間で、同朋精神、いのちの尊さ、思いやりと感謝の心などについて、お話しをしている。

教職員には、校長が朝礼や総括会議で、各目標について触れている。

中学校等学外への公表は、ホームページ掲載、学校要覧の配布で行っている。

(3) 現状の課題と今後の改善計画

教育目標・学校目標ともに、現在の生徒の状況に合っていることから、改善は考えていない。

3 定期的な点検

(1) 定期的な点検

企画運営委員会および教育体制推進委員会を中心に、教育理念・目標等が現在の生徒に合っているか、また、校務運営組織が現在の教職員構成にあっているかを検証している。

(2) 理事会または職員会議の関与

企画運営委員会および教育体制推進委員会を中心に、教育理念・目標等が現在の生徒に合っているか、また、校務運営組織が現在の教職員構成にあっているかを検証している。

(3) 現状の課題と今後の改善計画

定期的な点検等については、現体制に問題がないため、改善は考えていない。

評価領域Ⅱ 分掌

1 教育課程・学習指導

(1) シラバスの作成

学習指導委員会（教科主任の委員会）が主体となり、シラバス作成について協議し、すべての教科で年度当初に作成している。その実行の確認は必要に応じて各教科会で行い、年末の総括会議で確認している。

(2) 教育課程の履修によって取得可能な免許・資格

将来的には同学園短大との高大連携により、短大での資格取得に必要な単位を高校で先取り取得ができるよう検討をしていきたい。

(3) 教育課程に関わらず取得可能な免許・資格とその履修方法

日本漢字能力検定、数学検定、実用英語技能検定は課外講座で対応している。簿記能力検定、電卓計算能力検定、ビジネス文書検定は、授業および課外講座で対応している。

(4) 定期考査の結果に基づく教科指導

教務部から各学年主任に成績不良者に対する対応をお願いしている。各学年において、成績不良者に対する指導を協議し、教科担任と連携を図りながら指導（課題や講座等の工夫）に当たっている。

(5) 学習状況や評価方法などの生徒・保護者への周知

定期試験ごとに成績を家庭に郵送し、状況報告を行っている。また、保護者からの欄に感想・要望等を記入してもらい、家庭との連携を密にしている。

(6) 総合的な学習の時間の有効利用

総合的な学習の時間の目標

- ・「いのちの尊さ」「感謝」を大切に作る心を育て、実践する。
- ・「平等」精神に基づき、人種、文化を超えた理解と交流を図る。
- ・人は「生かされている」という精神を、地元・地域に限らず全世界に還元する取り組みと実践を行う。
- ・同朋精神を生かし、差別・偏見のない仲間・集団作り、友情を育てる。
- ・世界平和を希求し、平和の尊さを学ぶ。

これらの目標達成のために実践しているので、総合的な学習の時間は有効活用されていると考える。

(7) 生徒による授業評価

教科によっては、授業観察や反省を行っているところもある。生徒による授業評価実施の有無は、教科・教科担任に一任している。

(8) 授業改善への組織的な取り組み

学習指導委員会が中心となり、教科指導における問題の共有と課題解決に向けての協議を各教

科会と連携をとりながら行っている。

(9) 退学・休学・留年・転学等の数

区分	H 2 6 年度	H 2 7 年度	H 2 8 年度	備考
1 年 生 在籍数 (5 / 1)	2 8 8 名	2 3 8 名	2 4 9 名	
内、退学者数	名	名	名	
内、休学者数	名	名	名	
内、退学者数	名	名	名	
内、転学者数	名	1 名	1 名	
内、留年者数	名	名	名	
年度末在籍数	2 8 6 名	2 8 6 名	2 5 0 名	
2 年 生 在籍数 (5 / 1)	2 3 0 名	2 8 9 名	2 3 9 名	
内、退学者数	1 名	名	名	
内、休学者数	名	名	名	
内、退学者数	名	名	名	
内、転学者数	2 名	1 名	名	
内、留年者数	名	名	名	
年度末在籍数	2 2 6 名	2 8 6 名	2 3 8 名	留学生帰国
3 年 生 在籍数 (5 / 1)	2 4 8 名	2 2 4 名	2 8 6 名	
内、退学者数	1 名	名	名	
内、休学者数	名	名	名	
内、退学者数	名	名	名	
内、転学者数	名	名	名	
内、留年者数	名	名	名	
年度末在籍数	2 4 8 名	2 2 5 名	2 8 6 名	

(10) 退学者の退学理由、転退学者等へのケア

退学理由のほとんどが進路変更によるものである。転学者・退学者には通信制等について説明をし、今後に向けてのアドバイスをしている。

(11) 現状の課題と今後の改善計画

生徒の幅広い進路に対応していきたいが、展開数、教室数、教員数の関係で、対応できないところもあることが課題である。

教育課程・課外講座等で、他校に劣らない学習態勢となるよう検討していく。

2 生徒指導・部活動

(1) 生徒指導の年間指導計画

挨拶、服装、頭髪、時間管理は毎日チェックする。その中で重点となる事項を見極め、さらに

指導する。大きなテーマは「気付かせる」こと。

(2) 家庭と連携した基本的生活習慣の定着

教職員からも挨拶をする、教員は始業時間には教室にいる、一緒に掃除をするなど手本となるようにしている。教職員が崩れれば生徒も崩れる。

遅刻欠席指導も生徒が気付くように話をしている。定着しない生徒に対しては、早めに家庭と連絡をとり対応する。基本は生徒自身で行動できること。

(3) 服装、身だしなみ、マナー等の指導

定期的な検査もするが、基本毎日チェックする。ネクタイ・ボタンなど小さな変化に対してもすばやく指導し大きな変化を抑止する。一度ダメだと伝えたことは絶対に変えない。その反対で注意していないことをあまり強く言わない（温度差を防ぐ）。

(4) 問題行動の未然防止

問題行動やいじめについては、全校集会、学年集会、HR、学年通信で触れている。また、週1回の学年会で気になるサインのある生徒の名前をあげて全体で把握している（学年会報告書→教頭→校長）。また、保健室からの情報も教職員で共有している（保健室来室報告書→担任・教頭→校長）。

(5) 部活動等の現状

文化系の部活動は、局を含め14あり、体育系の部活動は14ある。バドミントン部と水泳個人がインターハイに出場し、ゲートボールが全国大会に出場した。全校生徒の部活動加入率は、75%でる。顧問配置は、怪我の多い部は原則2名配置している。

生徒会は、生徒会長1名、副会長2名、風紀常任委員長1名、文化常任委員長1名、体育常任委員長1名、書記3名、会計2名、議長2名、執行委員4名、合計17名で活動している。

仕事は、大谷祭・球技大会・高体連壮行会・新入生歓迎会・野球の全校応援・生徒総会などがある。今年度は、生徒主体で活動していくことを目指し、生徒が考え、生徒が自ら生徒会行事を動かしていけるような環境作りを行った。学校祭でも教員に頼るのではなく、生徒が主となり活動している様子が、少しずつではあるが見られた。また、普段の学校生活では風紀委員が昼休みに教室前や階段の掃除を実施、文化委員がゴミ分別のポスターを作成して教室掲示などをしていった。生徒会顧問としては、生徒の自主性を第一として活動していく姿勢を継続していきたい。

(6) 現状の課題と今後の改善計画

①生徒指導

大きな問題行動を起こす生徒はほとんどなく、落ち着いたように見えるが、SNS関係のトラブルが数件あった。グリーによるスマホ講座により、生徒の意識はかなり変わった。今後も続けていきたい。

②生徒会・部活動

生徒会においては、会長のリーダーシップのもと、ギネス世界記録への挑戦、後夜祭の復活など生徒たちが自主的に動き成功した。生徒会執行部と教員側のバランスがとれ大きな成果となった。

部活動においては、近年、大きな成果をあげている。戦績のみならず、課外活動へ取り組む姿勢、学校の雰囲気が「頑張らないといけない」という方向に向いている。アルバイトを始めた生徒も再度部活動に戻り熱中する生徒もいるなど、「文武両道」にステータスを持つ生徒が増えて

きた。

課題は、特に運動部活動において、生徒の「運動能力低下」に伴い、大きな怪我が絶えない現状がある。安全指導にも配慮しているが、生徒の運動能力向上、体力向上など根本から見直していくことと、実態に合わせた指導が求められる。

しかしながら、生徒会活動、部活動ともに活性化が進み、放課後は所狭しと校内のいたるところで活動する生徒が増えたことは健全であり、微笑ましい光景である。

3 進路指導

(1) 進路指導の年間指導計画

特徴としては、2 学年の 1 1 月から「進路ガイダンス」「進路保護者説明会」「進路相談会」「就職セミナー」「勉強合宿」「面接指導」等進路に対する関心を高める行事を増やしている。模擬試験も文理コースはベネッセ模試を全員受験としている。

(2) 卒業後の進路への関心を高める取り組み

前項でも述べた 2 学年 1 1 月を区切りとして考えている。学年集会や短大の協力を得た、短大講義の内容を実施していただく、介護・保育のインターンシップで生徒の意識付けをはかっている。また、今年度からは、2 学年向けの進学相談会・就職セミナーを実施し、具体的に学校への関心を高めたり、就職に対する心構えを指導したりした。

(3) 卒業後の進路に関する情報提供や保護者との懇談

進路の情報提供は、進学については各種オープンキャンパスや相談会を積極的に案内している。また、進路相談室を開放し、各校の案内や赤本などを閲覧可能にしている。また、今年度からは、今まで生徒が受験した進学・就職試験の内容報告をデータベース化し、担任を通じてよりスムーズに情報提供ができるように改善した。就職に関しては、ハローワークやジョブカフェと連絡を密にし、生徒を多角的に指導できるように工夫している。

(4) 現状の課題と今後の改善計画

課題としては、①進路先・受験方法の多様化、②面接・小論文・ディスカッションなどの試験対策、③進路のミスマッチ、④志望校合格に向けた学力の育成が主に挙げられる。

①・③については、1 学年早期からの取り組みを見直し、2 学年でのより具体的な進路選択につなげることが求められる。進路の手引きのファイル化によって、生徒の学年・進路に合わせた資料づくりを目指している。また、ガイダンスや模擬講義の機会を多く作り、大学を知ってもらう取り組みを進めている。

②・④については、学習指導委員会との連絡調整を密にすることが大切だと考えている。②については、小論文・ディスカッションの指導は特に、通常授業の中で生徒が主体的に考える取り組みによって、基礎を作る必要があると考えている。④については、模試などの結果を進路指導・進学 P T・教科担任が分析し、対策を立てている。

4 保健管理・安全管理・個人情報管理

(1) 事故発生時の保護者への対応

緊急時対応マニュアルにしたがって対応する。事故や問題が発生し緊急性のある場合は、まず現場の教職員が素早く対応(救急車を呼ぶ・警察に連絡する等)をし、保護者・管理職に連絡をする。その後、管理職に対応の指示を受ける。

(2) 生徒・保護者の個人情報の取り扱い

帯広大谷高等学校個人情報保護規程にもとづき個人情報を取り扱っている。

(3) 校舎内外の美化・清掃活動

校舎内は放課後に生徒が清掃している(トイレのみ業者委託)。校舎外は年に数回生徒による清掃活動を行っている。生活指導部と学年団が中心となり、美化・清掃活動が行われている。

(4) 健康・安全に留意した生活が送れるような指導

生徒の健康・安全については、基本的に毎日、担任をはじめ教職員が気をつけてみている。

(5) 災害対策・防犯対策

帯広大谷高等学校緊急事態発生時における措置規程および緊急時対応マニュアルにもとづき行っている。

(6) 現状の課題と今後の改善計画

保健管理・安全管理・個人情報管理については、個人情報管理表を作成するよう学内監査より指摘を受けており、改善に努めたい。

5 入試・生徒募集

(1) 入学選抜の方針・方法の明示

入試委員会、職員会議で、昨年度入試の分析・今年度入試の方針を決めている。7月段階で教育体制推進委員会によって十勝管内中学校への訪問を行い、入試選抜方法の概要について資料配布や説明を行っている。10月には、十勝管内の私学四校合同説明会において、各中学校へ入試要項の配布と説明を行っている。また、同時期にホームページ上において入試要項を公表している。

(2) 広報及び生徒募集体制

教育体制推進委員会が「中長期展望に立った特色ある教育を目指す教育改革案の作成」と「対外的広報活動全般の企画・実施」を行っている。本校の将来展望についての検討とともに、十勝管内中学校への広報活動も実施している。

広報・生徒募集については、教育体制推進委員会4名が十勝管内の全中学校に年間6回訪問し広報活動を行っている。また、中学校から生徒・保護者を対象とした進路学習会の講師の依頼があった場合、教頭が対応している。

(3) 現状の課題と今後の改善計画

入試・生徒募集については、入試委員会を中心として、情勢分析を行い、入試・募集の方針を立て、職員会議で決定している。また、その方針に従い、教育体制推進委員会を中心として、「対外的広報活動全般の企画・実施」を行っている。

現状の課題は、十勝管内中卒者数の減少である。十勝管内の中卒者数は、2016(平成28)年度が3190名、2024(平成36)年度には2876名で、現在より314名減となる見通しである。現在、十勝管内の中学校に年間6回訪問し、広報活動を行っている。今後も将来展望について

の検討とともに、管外中学校への広報活動の検討も進めていく。

また、入学選抜の方針を「定員を守る」から「定員確保」に変更する。推薦定員１００名、一般定員１６０名については、厳守ではなく、合計で２６０名の定員確保を目指す。特に推薦合格者数については情勢により柔軟に対応していく。

奨学金制度については、生徒確保と部活動の活性化等を目的に、学力および部活動における特別奨学生への応募を継続していく。

募集活動および目標入学者数については、中学校訪問、中学校が主催する進路学習会への参加、本校主催学校見学会・部活動体験入部等を通じて、本校の教育活動を発信していく。また、幼稚園・高等学校・短期大学の教育連携等、十勝唯一の総合学園としての特色・メリットを見いだしていく。当面の目標入学者数は、推薦１００名、一般１６０名、合計２６０名とする。ただし、今後の中卒者数の減少、公私定員比率等、情勢の変化に伴い、適正定員を検討していく。

6 特別支援教育

（１）特別支援教育への取り組みと考え方

特別支援を必要とする生徒は在籍していないが、在籍しているときの対応は、担任のみならず、教職員全員が状況を把握できる態勢をとるようにしている。

特別支援コーディネーター（教頭１名・養護教諭１名・教諭１名）を選出し、今後に向けて話し合いを行った。今後、研修会等に参加し、支援体制の充実を目指す。

（２）現状の課題と今後の改善計画

特別支援の対象生徒がいないことから、特別支援教育については、「特別支援学校でやること、本校には関係ない。」と考えている教職員が多いのが課題。

今後は、特別支援コーディネーターを中心に、教職員の意識改革を行っていく。

7 地域活動

（１）校内の様子への保護者への周知

学校連絡システム（メール配信）、PTA広報誌、学年通信、学級通信等で伝えている。

（２）学校の様子への地域への周知

ホームページで伝えている。

（３）PTA 活動の保護者への周知

PTA総会、学校連絡システム（メール配信）、文書で伝えている。また、年３回発行するPTA広報誌によって、校内外のさまざまな活動の詳細を報告している。

（４）生徒による地域活動（過去３カ年）

学校全体としては、校外清掃（近隣地域の清掃活動）を行っている。また、野球部・サッカー部が近隣地域の朝の清掃活動、ボランティア部（年間のべ１６０名）が次のような各種ボランティア活動を行った。

①やまびこ保育所訪問

保育所で子どもたちと接している。絵本の読み聞かせ、遊具での遊び、ブロック遊びなど現

役の保育士さんからもいろいろなことを教わりながら活動した。

②帯広動物園清掃

動物園の清掃活動を行っている。園内の枯葉や枝などを拾っている。地域の各団体の方との交流や動物の観察も行った。

③グリーンパーク公園

公園内のタンポポ抜きを、帯広市長さんやボランティアグループの方々と行った。

④子どもたちとの交流

NPO主催の子どもと遊ぶボランティアを行っている。物を一緒に作ったり、輪投げやシャボン玉で遊んだり、紙パックでお城を造ったり、段ボールで迷路を造った。

⑤障害者水泳大会

障害者水泳大会の選手をサポートしている。泳ぐ前に選手を誘導し、泳ぎ切ったあとに、迎えに行くなどのサポートをした。主催者団体から本校生の活動に対して表彰される予定である。

⑥ハロウィン装飾制作イベントスタッフ

帯広市親善交流課主催のハロウィンパーティーで会場設営を手伝った。また、当日は子どもたちとゲームやイベントを通して交流した。

⑦高校生フェスタ

帯広畜産大学に来ている研修員の方々とAFS高校生や他校生と交流できるイベントを手伝った。また、異文化体験や交流を深めた。

(5) 生徒による地域活動への学校による評価

まわりの方々に支えられて今の自分があること、感謝の気持ちを持つことが大切であると教えている。近隣地域の方々からの感謝の言葉をよく聞く。清掃活動をはじめ、本校生徒のボランティアに対する意識は高い。

(6) 現状の課題と今後の改善計画

地域活動については、学校行事および野球部の地域清掃活動、ボランティア部の様々な活動を行っている。地域から信頼される学校になってきた。

地域から信頼される学校になってきたが、今後も、第三者学校評価等、地域の方の意見・要望を聞くような取り組みを行っていく。

8 図書館

(1) 図書館の概要

登録蔵書数26000冊(閉架図書は除く)、学術雑誌400冊、AV資料数113、座席数72、年間図書予算は600000円、選定は生徒教職員の希望調査により行う。廃棄は資料価値の有無を検討し廃棄する。図書担当教諭5名(教務部4名、図書局1名)。貸し出し・返却・蔵書点検はコンピュータで処理している。

(2) 現状の課題と今後の改善計画

教務部の係と図書局との仕事の連携がとりづらいことがある(本の受け入れ業務等)。業務を一本化できる方策を考えていく。

評価領域Ⅲ 管理運営

1 理事会・評議員会等

(1) 理事会の運営

短期大学・高等学校・幼稚園の将来構想確立に向け、的確な意思決定機関として機能している
と考える。

(2) 評議員会の運営

評議員会は、現在 19 名の評議員により構成されており、委員各自の意見が反映されることで、
適切な判断に基づいて運営されている。

(3) 監事の業務

監事 2 名共に寄付行為の規定を遵守し、学園経営に適切な助言・指導を行っている。

2 校内運営

教育現場の運営は原則民主的に遂行されるべきもので、教職員のコンセンサスをもってより高
い教育効果が期待できるものとする。しかしながら、現場の教員に学校経営の視野に立って判
断を委ねるには限界があり、状況に合わせて適切な判断と助言を提示しながら民主的な決定をは
かることが賢明と考える。場合によっては、教頭が主催する委員会等に事前に校長の意思を伝達
した上で諮問し、それに添った決定を得る手段も必要と考える。

3 現状の課題と今後の改善計画

学校運営全般にわたり、運営委員会を中心に民主的運営がなされており円滑な状況。今後も、
現状のまま継続していきたい。

なお、改善計画は特に無いが、状況の変化に合わせて柔軟に対応していく。

学校評価を高めることの一つに、PTA と同窓会との良好な関係を構築することが重要である。
特に PTA 活動には教員が可能な限り積極的に参加し、保護者との接点を数多く設けることで信頼
関係がより深化できる。そのことで、教育活動が同世代の子供を持つ保護者に広範囲に伝わり地
域社会からの評価に繋がることは、大切なことである。

評価領域Ⅳ 財務

1 中長期財務計画の策定

経営の健全化に向けて、中期的な「経常収支推移表」を作成し、年度毎に更新している。

少子化に伴う公私間及び私私間の間口調整等による影響を踏まえ、将来の学級規模を考慮した教職員配置や施設設備引当積立資金、私学の特色を生かすための教育推進費積立等、経営安定に向けた財務基盤の安定を図るため具体的な数値による検討を進めることを目的として作成している。

2 事業活動収支の状況

当該年度における高等学校の収支差額は33,502,917円の収入超過であった。

管理運営費補助金が見込みよりも大幅に下回った減少要因はあったものの、平均年齢が低いことにより、人件費額が抑制されているほか、経費についても増加傾向を示す科目はあるものの、総じて抑制されたためと考えている。

3 財務情報の公開

(1) 財務情報公開の概要

毎年、学園広報誌により学園全体の財務情報を公開するとともに、学校法人帯広大谷学園財務書類等閲覧規則により計算書類の情報公開を行っている。

(2) 教職員への説明

総括会議の場において、予算の状況を説明する機会を設けている。

また、教職員から評議員を選出しており、評議員会で議題とされる資料については、評議員を通じて教職員が閲覧することができるため、財務状況も必要に応じて各人が閲覧できる状態となっている。

労働組合に対しても、機会に応じ財務状況等について説明をしている。

4 現状の課題と今後の改善計画

4年後に1名の定年退職者が予定されているが、その後しばらくは定年退職者が予定されておらず、人件費が増加していくことが避けられないほか、築40年を迎えようとしている校舎に対応するための資金確保及び生徒数減に伴う収入源等、財務のマイナス要因を多数抱えている。

特に、人件費については、定年年齢の延長も取り入れた中で、給与月額引き下げ等の協議を労働組合と行っていきたい。

生徒数の増加が見込めない中、学校経営規模をどの程度に設定して運営をするかが大きな課題である。適切な規模を見極め、人事計画や施設設備計画を策定する必要がある。

評価領域Ⅴ 改革・改善

1 自己評価の位置づけ

本校が自ら掲げる理念の実現及び目的達成のために行う教育活動等について必要な事項を定め、教育の適切な水準の維持及びその充実に資することを目的としている。

本校の学校評価委員は、教頭・事務長・企画運営委員・校務学年委員会委員長・学習指導委員会委員長・部活動委員会委員長・教育体制推進委員会委員長で組織している。

帯広大谷高等学校学校評価規程にもとづいて実施している。

2 過去の自己評価報告書の活用

学年・校務分掌等の論議（総括）に活用している。今後も継続していく。

3 現状の課題と今後の改善計画

1993年から校長の諮問機関である教育体制推進委員会を中心として学校改革を行ってきました。その結果、2003年から現在まで十勝管内私立高校の中で最も高い志願者数と学力レベルを維持してきました。しかし、ここ数年、進学実績が伸び悩んでいるというのが実情であります。

今年度は、教育内容の充実に向けて、道内外の高校と大学の視察を行い、進学実績の向上に繋がる新たな取り組みを検討した。

評価領域Ⅵ 学校評価アンケート

1 学校評価アンケートの結果と今後の課題

学校評価アンケート調査結果は、表1の通りである。

質問1 学校生活の充実

生徒の96.4%及び保護者の96.1%が、充実した学校生活と感じている。今後も活気のある学校を目指していく。

質問2 授業内容

生徒の88.7%及び保護者の87.9%が、学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われていると感じている。今後も授業研究、教材研究等を行い、魅力のある授業ができるよう努力していく。

質問3 基本的生活習慣

生徒の97.0%及び保護者の97.4%が、挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われていると感じている。生活指導を怠れば、進路実現も遠のく傾向にあるので、今後もしっかりとした生活指導を教職員の共通理解のもとに行っていく。

質問4 進路指導

生徒の95.3%及び保護者の95.7%が、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われていると感じている。今後も受験方法の多様化に対応できるよう新しい情報をキャッチし、的確な進路指導を心がけていく。

質問5 教育相談

生徒の94.9%及び保護者の95.5%が、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じしてくれる体制ができていると感じている。今後、さらに相談しやすい環境となるよう教育相談室の設置等を検討していく。

質問6 部活動

生徒の97.4%及び保護者の98.2%が、部活動が活発に行われていると感じている。今後も心身の健全育成のために部活動の充実を図っていく。

質問7 生徒会活動

生徒の95.6%及び保護者の96.9%が、生徒会活動が活発に行われていると感じている。今後も生徒が主体的に企画・運営できるよう育てていく。

質問8 学校行事

生徒の98.1%及び保護者の98.4%が、有意義な学校行事があると感じている。今後も生徒が主体的に企画・運営できるよう育てていく。

質問9 いのちの教育

生徒の98.0%及び保護者の97.6%が、いのちを大切にせる教育が行われていると感じている。今後も「いのちの尊さ」と人間としての「生き方」をしっかりと教えていく。

質問 1 0 災害・非常時の避難

生徒の 93.6%及び保護者の 92.8%が、災害・非常時の避難方法や連絡方法が伝えられていると感じている。学校は、災害が発生した場合、生徒を安全に行動させなければならぬため、日頃から避難(防災)訓練を学校安全計画や防災計画に位置付け、生徒が体験的に理解できるように計画的に実施していく。生徒には、様々な場面や状況における危険の予測・回避等について理解させ、状況に応じて安全に行動できるよう、防災意識や適応能力の向上を目指す。

質問 1 1 学校情報

生徒の 94.7%及び保護者の 94.4%が、学年通信などによって、学校の情報が適切に伝えられていると感じている。今後も学校と家庭で情報の共有を行っていく。

質問 1 2 施設・設備

生徒の 93.5%及び保護者の 93.5%が、校舎やグラウンドなどの施設や設備が整備されていると感じている。校舎が古くなってきたが、よりよい学習環境となるよう検討していく。

質問 1 3 いじめ防止

生徒の 87.1%及び保護者の 86.1%が、学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいると感じている。今後も、学年団、いじめ対策委員会をはじめ、教職員全体で、いじめの早期発見に取り組んでいく。

(%)

質問事項	回答	生徒				保護者			
		1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計
質問1 学校生活は充実している	よく当てはまる	62.3	59.8	61.8	61.3	57.9	65.9	59.1	61.0
	だいたい当てはまる	34.7	36.5	34.0	35.1	38.8	30.6	35.8	35.1
	あまり当てはまらない	3.0	3.3	3.7	3.3	2.9	3.1	5.0	3.6
	当てはまらない	0.0	0.4	0.5	0.3	0.4	0.4	0.1	0.3
質問2 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている	よく当てはまる	26.7	25.3	18.9	23.6	22.8	25.8	21.2	23.3
	だいたい当てはまる	65.2	56.2	73.8	65.1	59.7	66.6	67.5	64.6
	あまり当てはまらない	7.6	15.6	5.5	9.6	14.6	6.8	8.0	9.8
	当てはまらない	0.5	2.9	1.8	1.7	2.9	0.8	3.3	2.3
質問3 挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている	よく当てはまる	54.5	56.2	41.8	50.8	54.7	51.3	46.8	50.9
	だいたい当てはまる	42.0	41.1	55.5	46.2	41.9	46.2	51.5	46.5
	あまり当てはまらない	3.5	2.7	2.7	3.0	3.4	2.5	1.7	2.6
	当てはまらない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
質問4 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている	よく当てはまる	43.8	48.7	43.9	45.5	46.6	53.0	35.8	45.2
	だいたい当てはまる	50.3	46.3	52.7	49.8	47.2	44.0	60.3	50.5
	あまり当てはまらない	5.9	4.4	1.8	4.0	5.6	2.2	3.1	3.6
	当てはまらない	0.0	0.6	1.6	0.7	0.6	0.8	0.8	0.7
質問5 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている	よく当てはまる	47.5	54.0	48.9	50.1	43.8	62.3	47.3	51.1
	だいたい当てはまる	44.1	42.4	47.7	44.8	48.3	36.2	48.6	44.4
	あまり当てはまらない	8.4	3.6	2.7	4.9	7.9	1.5	3.4	4.3
	当てはまらない	0.0	0.0	0.7	0.2	0.0	0.0	0.7	0.2
質問6 部活動は活発に行われている	よく当てはまる	76.9	74.7	82.8	78.2	73.0	83.4	78.0	78.2
	だいたい当てはまる	20.1	22.0	16.0	19.4	25.1	14.7	20.3	20.0
	あまり当てはまらない	2.1	3.3	1.2	2.2	1.9	1.9	1.6	1.8
	当てはまらない	0.9	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0
質問7 生徒会活動は活発に行われている	よく当てはまる	45.1	45.1	51.1	47.1	43.0	50.0	55.7	49.5
	だいたい当てはまる	48.5	48.7	48.4	48.5	52.1	47.9	42.2	47.4
	あまり当てはまらない	4.4	5.3	0.5	3.4	4.0	2.1	1.6	2.6
	当てはまらない	2.0	0.9	0.0	1.0	0.9	0.0	0.5	0.5
質問8 有意義な学校行事がある	よく当てはまる	61.2	63.2	52.4	59.0	58.6	62.2	49.0	56.7
	だいたい当てはまる	37.2	34.8	45.5	39.1	39.4	36.0	49.7	41.7
	あまり当てはまらない	1.6	1.5	1.1	1.4	2.0	0.4	1.2	1.2
	当てはまらない	0.0	0.5	1.0	0.5	0.0	1.4	0.1	0.4
質問9 いのちを大切にする教育が行われている	よく当てはまる	62.7	70.1	58.0	63.6	64.9	68.0	61.1	64.7
	だいたい当てはまる	33.0	29.4	40.8	34.4	32.4	31.6	34.6	32.9
	あまり当てはまらない	4.3	0.5	0.7	1.9	2.7	0.0	4.3	2.3
	当てはまらない	0.0	0.0	0.5	0.1	0.0	0.4	0.0	0.1
質問10 災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている	よく当てはまる	45.4	57.6	41.1	48.0	48.4	52.5	44.1	48.4
	だいたい当てはまる	47.1	38.1	51.6	45.6	44.6	44.0	44.6	44.4
	あまり当てはまらない	7.5	3.7	7.3	6.2	6.4	3.5	11.2	7.0
	当てはまらない	0.0	0.6	0.0	0.2	0.6	0.0	0.1	0.2
質問11 学年通信などによって、学校の情報は適切に伝えられている	よく当てはまる	50.3	57.7	38.2	48.7	51.6	48.1	41.0	46.9
	だいたい当てはまる	44.9	37.9	55.1	46.0	44.4	46.8	51.5	47.5
	あまり当てはまらない	4.4	4.4	6.2	5.0	3.6	4.7	7.5	5.3
	当てはまらない	0.4	0.0	0.5	0.3	0.4	0.4	0.0	0.3
質問12 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている	よく当てはまる	48.9	51.2	44.5	48.2	48.6	50.4	34.0	44.4
	だいたい当てはまる	41.1	43.7	51.2	45.3	42.0	43.1	62.1	49.1
	あまり当てはまらない	9.1	5.1	4.3	6.2	8.5	6.5	3.8	6.2
	当てはまらない	0.9	0.0	0.0	0.3	0.9	0.0	0.1	0.3
質問13 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる	よく当てはまる	39.6	36.9	30.2	35.6	37.2	38.7	26.1	34.0
	だいたい当てはまる	46.7	51.0	56.9	51.5	48.4	53.7	54.1	52.1
	あまり当てはまらない	11.2	11.7	11.7	11.5	13.2	7.2	18.6	13.0
	当てはまらない	2.5	0.4	1.2	1.4	1.2	0.4	1.2	0.9

むすび

自己評価報告書については、後日、学校関係者評価委員会で分析・論議し、保護者等に公開する予定である。

今年度は、教育内容の充実について、ある程度の評価は得られたが、様々な課題があることも明らかになった。しかし、過去最高の進学実績となり、これまでの進路指導部、学習指導委員会の取り組みに加え、3年目を迎える大谷塾の成果が徐々に現れてきたものと推察される。

今回の報告書の分析結果をもとに、建学の精神に基づく学校づくり、教育内容や学校体制の改革など、時代のニーズに応えられるよう多角的に検討していきたい。

学校評価委員会